

15 陸の豊かさを守ろう



17 パートナリシップで目標を達成しよう



GMナタネ自生調査活動20周年

これからも市民による調査活動を継続していきましょう

20周年記念 講演会・報告会

市民の手で明らかにになった遺伝子汚染

日時：7月30日
主催：遺伝子組み換え食品いらない！
キャンペーン

グリーンコープは、安全性に不安のある遺伝子操作食品が広がっていくことに危機感を持ち、反対する運動を進めています。その運動の一つが遺伝子組み換え（以下、GM）ナタネの自生調査活動です。グリーンコープなど全国の生協や市民団体が主体となって取り組み、20年を迎えました。20周年を記念し、7月30日に東京の会場とオンラインで行われた「遺伝子組み換えナタネ自生調査運動20周年記念講演会・報告会」と、6月24日に福岡で行われたグリーンコープの「2024年度自生GMナタネ汚染調査報告会」について報告します。

GMナタネとは、GM技術により、除草剤を散布しても枯れない耐性を持つナタネのこと。除草剤（ラウンドアップ・バスタ等）の耐性検査で陽性反応を示す。試験紙による1次検査で反応が疑わしい「疑陽性」の場合は、2次検査（PCR検査）を行うことでGMかどうかを明らかにできる。

グリーンコープの 自生GMナタネ 汚染調査活動のあゆみ

グリーンコープでは、各会員生協の組合員が主体となって、2005年春からGMナタネの自生調査を開始しました。2009年からは抜き取りの活動も始まり、組合員だけでなく、グリーンコープの取引先や地域住民の方も参加する「市民による監視活動」として継続しています。また、自治体に要望書や意見書を提出したり、ナタネの輸入会社や製油工場に飛散防止対策や自生GMナタネの刈り取りを求める活動に取り組む会員生協もあります。その結果、荷揚げ港や製油工場周辺での清掃や除草が進んでいるとの報告も増えてきました。



やまぐちでの検査の様子

私たちの食卓をも脅かす GMナタネによる 遺伝子汚染

ナタネは食用油の原料などとして欠かせませんが、現在日本は、その[※]99.8%を輸入に依存しています。最大の輸入元はカナダで、そのほとんどがGMのセイヨウナタネ（キャノーラ）です。そのため荷揚げ港周辺や製油工場への輸送途中でナタネがこぼれ落ち、GMナタネの自生が広がっています。

日本各地に自生したGMナタネは、在来種のナタネや他のアブラナ科の植物と交雑を起こしています。このままでは大根や白菜なども交雑し、私たちの食卓にまで汚染が広がる危険性があります。

GMナタネ自生調査は、その実態を調べ、汚染を食い止めようと、遺伝子組み換え食品いらない！キャンペーンの呼びかけに、全国の生協や市民団体が賛同し、2005年から始まりました。

※2023年度農林水産省「作物統計」及び財務省「貿易統計」より

グリーンコープからの報告



グリーンコープ生協くまもと理事長の小林香織さんが、14の会員生協で取り組んだ今年度の自生GMナタネ汚染調査について報告し、「今後もGM反対運動に関わる仲間を増やし、未来の子どもたちのために安心・安全な食卓と環境を守る取り組みを力強く進めていきます」と述べました。

2024年 全国遺伝子組み換えナタネ自生調査結果

検体 総数	ラウンドアップ耐性 陽性	バスタ耐性 陽性	両耐性 陽性
690	32	18	3

※「遺伝子操作食品を考える中部の会」の三重県の調査分を除く

トークセッション

登壇者
・遺伝子組み換え食品いらない！
キャンペーン
代表 天笠 啓祐さん
・遺伝子操作食品を考える
中部の会
代表 河田 昌東さん
・一般社団法人農民連
食品分析センター
所長 八田 純人さん

河田 農水省がGM作物の栽培を許可しているにもかかわらず、日本の農家は誰一人GM作物を栽培していません。私たちが20年間全国で調査を行い、その結果を公表してきた成果だと思っています。

天笠 最初の年に、長野県の高速度道路脇でGMナタネが見つかり驚きました。国は荷揚げ港周辺しか調査しません。国が調べないところを調べる。これこそが市民による調査活動の意義です。

河田 活動に参加すると、GMの問題に自分が直接関わっているという自信につながります。ぜひこれからも継続していきましょう。

河田 最近では除草剤のラウンドアップとバスタの両方の耐性を持つGMナタネも見つかっています。自生したそれぞれの耐性ナタネが交雑したのでしよう。GMナタネが自生すれば、他のアブラナ科の農作物と交雑する危険性もあるということです。

八田 皆さんの募金でPCRの設備を購入し、市民科学の最前線となって検査を行っています。試験紙では陰性なのにPCR検査で除草剤耐性遺伝子が見つかる「隠れGMナタネ」も発見しました。

河田 活動に参加すると、GMの問題に自分が直接関わっているという自信につながります。ぜひこれからも継続していきましょう。

記念講演

シテイズン・サイエンスとしての ナタネ自生調査



講師
木村一平 田あやさん
ハワイ大学
社会学部教授

市民主体の科学的調査が 広がる背景

シテイズン・サイエンスとは、専門家ではない一般市民が科学的な調査を行うことを指します。2000年頃から世界的に広がりました。その背景には、健康や環境に関するリスク、放射能汚染のように目に見えない普遍に暮らしているだけで分らないリスクが増え続けている社会の現状があります。リスクへの対策を講じるためには自ら科学的なデータを収集することが必要だと考えた市民が立ち上がり取り組んできました。また、例えば原子力村のように、科学と企業との距離が近いことを心配する人も多く、その点でもシテイズン・サイエンスは中立な立場での信頼できるデータ収集だと思われています。

シテイズン・サイエンスは、多くの市民が参加することによって、専門家だけではできない広範囲なデータを収集できます。また、生活者目線でデータが取れるという利点もあります。さらに、参加した市民がデータ収集を通してその問題について学ぶことができる、つまり市民の科学的リテラシー向上にも貢献しています。

20年もの間続けてこれたことは、世界的にも貴重なシテイズン・サイエンスの例です。皆さんの活動が監視役になってきたからこそ、公的な機関や専門家によるデータ収集もきちんと行われてきました。長年取り組まれてきた成果です。

皆さんはナタネの自生調査を、GM反対運動の一つと位置づけ、陳情や署名活動、勉強会など、様々な取り組みと組み合わせることで、本来の目的や運動性を見失うことなく続けてこれました。日本の農業や食の問題への市民の知識を増やすことに焦点を置いてこれたことも、非常に大きいと思います。毎年多くの人や団体が参加し、協力して調査を行うことで、運動体としての信頼関係が深まっている様子が感じられます。

シテイズン・サイエンスは市民の連帯と協同の場をつくる一つの手段です。これからはナタネの自生調査活動とおして、皆さんが草の根の連携と社会への問題提起を継続されることを願います。

シテイズン・サイエンスの 意義とジレンマ

シテイズン・サイエンス

シテイズン・サイエンスは 社会運動の手段の一つ

皆さんが主体となってナタネの自生調査活動

ふくおか

抜き取り活動の成果と継続の必要性を実感

年に数回、組合員やメーカーなどが参加して自生GMナタネの抜き取りを行っています。箱崎ふ頭のナタネの荷揚げ場所は、企業による清掃が行き届いており、こぼれ落ちた種子も芽生えたナタネも全くないことを昨年の活動でも確認しました。私たちの活動の成果です。しかし今回、荷揚げ場所から少し離れた場所で、こぼれ落ちた種子や、芽吹いたり鞘をつけたナタネがたくさん見つかり、その差に驚きました。今後も抜き取り活動を続けます。



ほとんどの検体から陽性反応が出ました。

やまぐち

今年も幹線道路沿いでGMナタネを確認

昨年初めて陽性反応の検体が出た山口南地区で採取したナタネから、今年もラウンドアップ陽性が出ました。調査を行った国道2号線沿いは、県内外を行き来する大型トラックが多く、こぼれ種が自生する可能性が高い場所です。昨年ナタネを採取した場所は、採取後に抜き取りを行ったため今年は自生していませんでしたが、国道を挟んだ路肩で採取して検査すると、やはり陽性でした。風媒や虫媒などでGMナタネが広がっていくのではと危機感を持ちました。



陽性反応が出た自生ナタネ。

おかやま

継続して調査する大切さを改めて認識

宇野港で採取した検体は、昨年はすべて陰性でしたが、今年はすべて陽性でした。昨年は自生が確認できなかった港近くの製油所付近に、今年は小さなナタネがたくさん生えており、2検体を検査して、それぞれバスタ陽性とラウンドアップ陽性でした。宇野港近くの別の場所で採取した1検体からは、ラウンドアップ陽性とバスタ疑陽性の反応が出ました。昨年初めて通年で開花状況を観察しましたが、季節外れの開花はありませんでした。



製油所近くで見つけた自生ナタネ。

2024年度
グリーンコープ自生GMナタネ汚染調査結果

調査した 生協名	調査 箇所数	1次検査で反応が出た検体		
		ラウンドアップ	バスタ	判断不可
おおさか	10	0	0	0
ひょうご	5	0	0	0
とっとり (島根)	5	0	0	0
おかやま	4	2(陽性)	1(陽性), 1(疑陽性)	0
ひろしま	5	0	0	0
やまぐち	12	1(陽性)	1(疑陽性)	1
ふくおか	60	10(陽性), 3(疑陽性)	8(陽性)	0
さが	5	0	0	0
(長崎)	5	0	0	0
くまもと	76	1(疑陽性)	0	1
おおいた	18	0	0	0
かごしま	7	0	0	0
みやざき	10	1(疑陽性)	0	0
合計	227	18	11	2

「ラウンドアップ」「バスタ」は共に除草剤。遺伝子組み換えにより、これらの除草剤に耐性を持つナタネはこの検査で陽性反応を示す。

みやざき

初めての陽性反応に汚染の広がりを懸念

宮崎県内にはナタネの荷揚げ港や大きな製油工場もなく、地区委員は、自分たちの身近な場所に自生するナタネを探して調査しています。今回、宮崎市内の清武町で、ラウンドアップ疑陽性の反応が出ました。これまでの調査で陽性反応が出たことはなかったもので、とても驚いています。宮崎は農業県であり畜産が盛んなので、鶏や豚などの飼料に含まれているGMナタネがこぼれて、発芽してしまう可能性が高いのではと感じています。



清武町での1次検査の様子。

くまもと

大学生とのつながりが生まれ調査活動の輪が広がる

今年度は、初めてグリーンコープのお店で一次検査を行い、ナタネ調査について広く組合員に伝えることができました。また、2月に開催したGMOフリーゾーン運動全国交流集会で出会った崇城大学SCB放送局の大学生から申し出があり、一緒に調査しました。採取した5検体を、大学生や熊本県職員、グリーンクラブの方も加わって一緒に検査を行い、1検体からラウンドアップ疑陽性の反応が出ました。



大学生と一緒に調査を行った様子は、崇城大学SCB放送局の番組として放送されました。

※グリーンコープの納入業者の会

2024年度グリーンコープ自生GMナタネ汚染調査報告会

2024年度も、グリーンコープの14の会員生協で、自生GMナタネ汚染調査に取り組みました。報告会では、採取した検体から陽性や疑陽性の反応が出た5つの会員生協から報告がありました。2024年度の調査結果とともに、会員生協の報告について紹介します。



開催日：2024年6月24日
主催：グリーンコープ共同会
会場：福岡市内
参加：組合員など122人
※オンラインで同時配信



海外の仲間から

グリーンコープの友人のみなさんへ

Letter for Green Co-op June 27, 2024

多くの消費者の声が状況を変えました

夏が到来しました。蒸し暑い日中は、虫の鳴き声や小鳥のさえずりが聞こえ、夜はひんやりとした闇に包まれます。裏庭では、まるで7月4日（独立記念日）の花火のようにホタルが飛び交っています。風と大地は生きている！母なる自然は、素晴らしい豊かさを私たちに与えてくれていることを実感しています。

最近友人が「豊かさとは必要以上のものを持つことではなく、必要な時に必要なものを持つことだ」という言葉を教えてくれました。テレビやソーシャルメディアで、必要以上の物を持つ富裕層の映像を見せつけられると、多くの人は羨望だけでなく、贅沢品を持ってない自分が不安になることがあります。でも、私たちには別の豊かさがあり、必要な時に必要なものを手に入れることができる、という考えに立てば、そのようなことで心配することもなく、精神的に穏やかな生活ができるのです。

マムズ・アクロス・アメリカの活動で、私たちは長い間、人間の基本的なニーズは、食べものに何が含まれているのかを知ることだと考えてきました。遺伝子組み換え作物を食べたいのか、食べたくないのか。グリホサートを許容するか否か。自分たちが何を食べているのかを知ることが、人間の基本的な欲求ではないでしょうか。

最近、大きなニュースがありました。アメリカの大手スーパーであるホールフーズが、ついに自社

のブランド食品に「バイオ工学で作られた原材料を使用」と記載したのです。今回の唐突な表示に不安になった多くの消費者は、この意味を知りたくてソーシャルメディアに殺到しました。ほとんどの人は、バイオ工学で作られた食品が遺伝子操作されたものであり、過去28年もの間、食品に表示されていないことに気づいていませんでした。

マムズ・アクロス・アメリカを始めとする多くの団体が、遺伝子組み換え食品表示のために20年以上活動してきた結果、ついに表示が実現しました！今回の表示によって、アメリカの消費者は自分たちが日常的に買っている食品の多くが遺伝子組み換えであることを知り、不満を感じ、遺伝子組み換えでない食品を手に入れる必要があることに気づき始めたのです。

今回のホールフーズの食品表示の対応を受けて、私たちはさらに健康的な社会を創造するための行動を続けていきます。今年6月、マムズ・アクロス・アメリカは市販のグルテン・フリー食品のグリホサート、農薬、ミネラル、グルテンに関する検査を発表しました。46サンプル中44サンプルからグリホサートが検出され、グルテン・フリーにもかかわらず7サンプルからはセリアック病患者にとって有害なレベルのグルテンが検出されました。

※小麦や大麦、ライ麦などに含まれるタンパク質のグルテンに対する遺伝性の不耐症。小腸の粘膜に炎症・吸収不良が生じ、成人の場合、下痢、低栄養、体重減少などの症状がでる。

多くの消費者の声が状況を変えたと私たちは確信しました。今回の問題を告発した結果、メーカー各社は「食品の安全性を非常に重視している」と回答し、遺伝子組み換え食品の表示に対応し始めています。あるオーツ麦流通センターでは、グリホサートが散布されたオーツ麦の受け入れを中止しました。先月皆さんにお知らせしたように、私たちの食品検査結果を提出したことで、米国食品医薬品局は議会に対して、ベビーフード安全法に粉ミルクを追加するよう要請しています。大ヒットした映画「コモン・グラウンド」は、何千もの農家に再生有機農業への転換を促しています。

消費者と生産者が共に手を携え、政治家たちと連携することで、アメリカ、日本、そして世界の食料供給を変え、健康で平和な社会をつくることができると信じています。いつの日か、日本がアメリカに対して、再生可能な有機栽培の食料に限って輸入するという政策が出されることを夢んでいます。

これこそが私たちが求める本当の豊かさではないでしょうか。

皆さまの連帯に感謝を込めて

ゼン・ハニーカット
マムズ・アクロス・アメリカ
訳：大橋成子